# ボロブドゥールの仏教を考える（ver. 1.2）

## 1. 初期仏教

・ブッダ（buddha，仏陀）：悟った人
・ムニ（muni，牟尼）：聖者
・アラカン（arthat，阿羅漢、羅漢）：尊者
・ボーディサットヴァ（bodhisattva，菩薩）：悟りを求める存在（人）
・シッダールタ：カピラヴァストゥにあった王国の王子。ゴータマ氏（うじ）。シャーキャ（釈迦）族。
「ゴータマ・シッダールタ」「釈迦牟尼」「釈尊」
・生誕⇒結婚⇒出家⇒修行⇒成道⇒布教⇒入滅
・在家⇒出家、悟り⇒教え（智慧と慈悲、自利利他）
・三宝：仏（ブッダ）、法（ダルマ）、僧（サンガ）
　・仏：生身、法身
　・法：経・律・論（三論）
　・三法印：諸行無常、諸法無我、涅槃寂静
　・出家者共同体
・言語：民衆語から文章語へ
　・マガダ語⇒サンスクリット語（シッダールタ）
　⇒漢訳、チベット語訳
　・マガダ語⇒パーリ語（シッダッタ）（プラークリット）

| 年代 | 事項 |
|---|---|
| 前5世紀頃 | ブッダ活躍（～前383年） |
| 前283年頃 | この頃、第2回仏典結集。この頃、根本分裂。 |
| 前268年頃 | マウリヤ朝のアショーカ王即位。仏教を普及。 |
| 前100年頃 | 部派分裂終わる。大乗仏教運動始まる。 |
| 前100年頃 | スリランカにアバヤギリヴィハーラ建立 |
| 1世紀 | 初期大乗経典成立（～250年頃） |
| 67年 | 後漢に仏教伝来、白馬寺建立。 |
| 320年 | グプタ朝、成立。サンスクリット語を公用語とする。 |
| 415年頃 | ブッダゴーサ、スリランカに滞在し『清浄道論』をパーリ語で執筆。 |
| 431年 | 求那跋摩、スリランカ、ジャワを経て宋に大乗戒を伝える。 |
| 435年 | 求那跋陀羅、スリランカを経て宋に至り大小乗諸経を訳す。 |
| 4～5世紀 | 世親、活躍。 |
| 538年 | 百済から日本に仏教公伝。 |
| 645年 | 玄奘、唐に帰国 |
| 695年 | 義浄、唐に帰国 |
| 7世紀後半 | 金剛頂経、南インドで基本形が成立。 |
| 718年 | 不空、ジャワで金剛智と出会う。 |
| 736年 | インド僧菩提僊那、林邑僧仏哲、来日。 |
| 746年 | 不空、長安に再来、密教経典を多数訳出。不空⇒恵果⇒空海 |
| 752年 | 東大寺大仏、開眼供養。 |
| 790年頃 | ボロブドゥールの建立始まる。仏伝・ジャータカ・華厳経・金剛頂経に依拠。 |
| 794年 | チベットでサムイェーの宗論。 |
| 806年 | 空海、日本に帰国。 |

## 2. 部派仏教

・第一次分裂（根本分裂）
　ブッダ入滅後100年頃、アショーカ王治世、「十事の非法」をめぐる対立⇒上座部と大衆部
・第二次分裂
　第一次分裂から100年～300年後の間に、大衆部は9部派、上座部は11部、合計20部派。
・上座部からは説一切有部が分派し、有力となる。
・ヴァスバンドゥ（Vasubandhu，世親、4-5世紀）
　『阿毘達磨倶舎論』⇒倶舎宗
　『唯識三十頌』⇒法相宗
　南都六宗：三論、成実、法相、倶舎、華厳、律
・上座部（Theravāda）
　保守正統、パーリ語を採用、スリランカが拠点⇒12世紀以降、東南アジアに広がる。

## 3. 大乗仏教（Mahāyāna）

・前1世紀～⇒大乗仏教運動：多仏、多菩薩⇒部派仏教（とくに有部）を「小乗仏教（Hīnayāna）」と批判
・1世紀～⇒新しい経典の出現：『般若経』、『華厳経』、『法華経』、『無量寿経』（阿弥陀仏）など
・7世紀後半～⇒密教経典の出現『金剛頂経』（大日如来の説教）など
・玄奘の記録（7世紀）：インドでは大乗、部派仏教、バラモン教、ヒンドゥー教が併存
・義浄の記録（7世紀）：東南アジアでは根本説一切有部、正量部、大衆部、上座部、大乗（スマトラ）が実践
・「8世紀の仏教世界」：インド・東南アジア・東アジア
　サンスクリット語（漢訳、蔵訳）：大乗（＋密教）＋部派仏教（有部、正量部）、パーリ語：部派仏教（上座部）

## 4. 参考文献

金岡秀友（編）. 1977.『部派仏教＜シンポジウム仏教＞』佼正出版社.
金岡秀友・柳川啓一（監修）. 1989.『仏教文化事典』佼正出版社.
奈良康明. 1979.『仏教史 I インド・東南アジア』（世界宗教史叢書7）山川出版社.
奈良康明ほか（編）. 2010.『新アジア仏教史』全15巻（とくに第4巻・東南アジア）佼成出版社.